

平成27年度

第60回 長野県中学校連合教科研究会

音楽科

目次

I 研究テーマ	1
II 趣旨	1
III 参加校テーマ一覧と参加者名、指導者名	1
IV 研究問題と協議内容	2～7
V 本年度の研究の反省と来年度の方向	7～8
VI あとがき	8

I 研究テーマ

「生徒自ら音楽活動の楽しさを体験し、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育む支援はどうあったらよいか」

II 趣旨

生涯にわたって音楽に親しんでいこうとする心情は、音楽のよさや美しさなどを感じ取り、音楽について認識を深めていくことによって徐々に形成されていく。そのためには、表現や鑑賞の幅広い音楽活動を行うことが重要であると考え。生徒が、多様な音楽活動を通して、音楽の構造と曲想とのかかわりを理解したり、喜びや楽しさを体感したりするために、教師の支援はどうあったらよいかについて考えていきたい。

III 参加校テーマ一覧と参加者名、指導者名

【第1分科会】

- ・指導者 中信教育事務所主任指導主事 石川 武 先生
- ・司会者 長野市立豊野中学校 杉山 厚志 先生
- ・記録者 安曇野市立穂高南小学校 関 奈津美 先生
- ・世話係 信州大学教育学部附属松本中学校 五味 誠 先生

学校名	研究の要旨
豊科北中学校 (鑑賞領域)	鑑賞を深められるためのグループ活動を設定し、感じ取った要素と音楽そのものがどのように結びついているのか説明する場面を作ることにより追究、グループ追究、全体での共有を通して音楽の形式に気づき、よさや美しさをどう味わわせるのか迫っていく研究。
豊科南中学校 (創作領域)	音楽を形づくっている楽曲の構造と要素とのかかわりを理解して聴かせ、自分のもったイメージを自分の言葉で共に伝え共感し合い、音楽のよさや美しさを味わいながら表現できる生徒の育成についての研究を行った。
附属長野中学校 (創作領域)	創作分野で、CUPSの基本のリズムを基にアレンジした自分たちの班の曲を、「リズム」「形式」のかかわり合いに着目しながら友と意見交換して見直す活動を位置づけ、高めていくための研究。
信更中学校 (歌唱領域)	生徒が聴き取ったことと表現したいことを音楽の要素に結びつけ、曲にふさわしい表現で工夫したり、声部のバランスについて表現したいことを友だちと伝え合うための工夫についての研究。
箕輪中学校 (歌唱領域)	男声の歌唱技能を伸ばすために、どのような指導をしたらよいか。またリズムを感じて歌唱させていく方法の研究。
豊田中学校 (歌唱領域)	お互いの思いや考えを伝え合い工夫していけるグループ活動の場を設定し、少人数で歌っていく中で声部の役割を意識した歌い方をしたり、一人一人声を出すことの責任を感じたりできるようにした。主旋律を引き立たせる歌い方に迫る場面での教師の支援についての研究。
青木中学校 (歌唱領域)	歌うことを通して歌詞から情景をイメージして表現させるための方法。また、グループ活動や話し合いをどうもたせたらよいか、生徒が共に表現力や想像力を高め合う学習指導のあり方について。
附属松本中学校 (器楽領域)	アーティキュレーションに注目し、表現の工夫を追究する活動を行った。生徒が表現したいイメージをもち、それにあったアーティキュレーションや強弱、速度の変化を中心に表現を工夫し、アルトリコーダーで演奏する楽しさや工夫のよさを味わうための支援について。

【第2分科会】

- ・指導者 長野県総合教育センター専門主事 西澤 真一 先生
- ・司会者 坂城町立坂城中学校教諭 竹腰 益臣 先生
- ・記録者 塩尻市立丘中学校教諭 大久保 慧 先生
- ・世話係 信州大学教育学部附属長野中学校教諭 稲垣 典子 先生

学校名	研究の要旨
檜川中学校	一人一人が願いや考えをもち、友とともに学びを深める音楽学習について、曲の構成を理解し、リズムアンサンブルの表現を工夫する授業を通して研究した。
信州新町中学校	曲の価値と音楽を形づくっている要素の働きとを結びつけた鑑賞の授業について、曲の特徴を知り、作者の思いを感じ取る授業を通して研究した。
広徳中学校	音楽科として、確かな学力をつけるにはどのようにすればよいかについて、拍子やリズムの変化を知り、音楽から受ける印象の違いを感じようとする授業を通して、研究した。
根羽中学校	思いや意図をもって合唱できる授業展開はどうあったらよいかについて、「春に」の全校合唱指導を通して研究した。
南宮中学校	生徒が自ら課題をもって、お互いに関わり合いながらパートやバディ等の学習形態を工夫しながら学習を深め、自分のイメージする表現に近づいていく授業について、グループ活動や相互評価の工夫を通して研究した。
緑ヶ丘中学校	生徒が音楽のよさや表現する楽しさを感じ、学ぶ意欲を高めていけるような指導はどうあったらよいかについて、曲の仕組みや曲想の変化について理解し、ふさわしい表現を工夫する授業を通して研究した。
辰野中学校	生徒一人一人が、表現する楽しさを感じ、主体的に追究するための指導について、自分たちの創り出したリズムアンサンブルを楽しむ授業を通して研究した。
附属長野中学校	自分の思いと音楽の構造とをかかわらせて表現する力を高める指導の在り方について、CUPSの基本のリズムを基にアレンジしたり、自分たちの班の曲を「リズム」「形式」のかかわり合いに着目しながら友と意見交換して見直したりする授業を通して研究した。

IV 研究問題と協議内容

【第1分科会記録】

討議題1 音楽を構成する要素とイメージを結び付けるための指導のあり方

豊科北中：音楽の形式とそのよさを味わうことができる鑑賞の指導のあり方

- ・強弱や音域、楽器の音色等、聴く観点を提示する事で、豊かに感受することができる。
- ・動機のみ、音色のみに着目させて、どう変化していくかを鑑賞する事も効果的。
- ・グループ学習の仕組み方やグループ学習後の全体場面でどうまとめていくかが難しい。

【石川先生のご指導】

- ・鑑賞では、その楽曲のよさと、知覚・感受の関わりを知る必要がある。そのために、形式が繰り返されていることで曲の印象がどうなるか、繰り返さない演奏と比較して聴き比べたり、楽譜を簡単な図にし、同じところ・違う所を色分けしてまとめたりして、視覚的にわかるようにしていくのも手だてになる。
- ・個人の感じ方、グループの感じ方でさまざまなものが出てくる。その後、先生がどうまとめていくか。共同で学びたいことは何かを、教師がもっていないといけない。個人→グループ→共同追究か

ら最後は個人に戻っていかなければいけない。個人に戻った時に子どもが自由に話し合ったことを、どう価値つけていくか。鑑賞は「感じとったこと」に「音楽を形づくっている要素」がどう関わっているかが「わかる」ことが大事。最後のまとめで子どもがワークシートに何を書けていればよいかを構想しておく。

- ・教科書の教材や曲ありきではなくて、この事を勉強させるためにこの曲を使ってという様に授業を考えていきたい。

討議題2 友とかかわり合いながら工夫を重ねていく創作授業のあり方

豊科南中：友との関わり合いの中で、音楽力を高めていく工夫
附属長野中：自分の思いと音楽の構造とをかかわらせて表現する力を高める指導のあり方

【石川先生のご指導】

- ・創作は演奏の技能を評価するのではないため、創意工夫したことを演奏できなくてもよい。創作では個人の活動が見えづらいので、途中の思考過程がわかる記録を残していくようなワークシートの工夫が必要。
- ・創作の内容は簡単でよい。旋律づくりでも、リズムが同じで音を選べば一人一人の音楽ができるといった題材で十分に生徒に表現を工夫する力をつけることができる。ただ適当に音を選ぶ作業から内容をふくらませていくことが大切。友達作品を楽譜を見て聴き、それぞれの工夫の違いやよさについて学習できる。「なんでその音を変えたのか」「このほうがこんな感じがするから」という部分を大事にしてその効果の違いを共通理解していくような全体での追究や振り返りの場面をもちたい。

討議題3 思いや意図をもって追究する歌唱指導のあり方

信更中：声部のバランスを意識して歌うための支援のあり方
箕輪中：音程を意識して歌うための支援のあり方
豊田中：「表現の工夫」の評価はどうあったらよいか
青木中：グループ活動を行う際の教師の支援のあり方

- ・男声パートがぶら下がってしまうことに、どのように指導していけばよいか。
 - ・合唱曲をどう評価していけばよいか。発表会後に一人ずつテストをするので、歌唱の評価としてよいか。
- 学年ごとにテーマを決めて、曲は違うが同じ観点で評価するようにしている。

【石川先生のご指導】

- ・合唱では、発表のために表現を整えることが目的でよいか、よく考えて授業を構想したい。音程が取れないことについては、子どもの実力とかけ離れた曲を、無理にやらせていないかを見ていくことが必要。例えば体育のバレーボールの学習で、ネットの高さを下げたり、ボールを柔らかくしたりして、教材を子どもに近づける。音楽でもそういう教材研究があってもよい。
- ・合唱コンクールの題材では、同一学年内の指導事項を揃えることが必要。違う楽曲を扱っても、同じことを学べるようにする。
- ・合唱表現の創意工夫の評価を学習カードの記述だけで見てもよいのか。どこで子どもの創意工夫を育てる場面を作るか、この曲のどの場面を使うか教材化が必要。難しい曲をやっと歌えるようにして

発表して終わるような授業では、生徒の思考力・判断力・表現力は伸びない。「協力して心が一つになりました」で終わらせるのではなく、「この曲で音楽表現のこういう勉強をしました」と言えるようにしたい。

- ・また、生徒が「こう歌いたい」という音楽表現の思いや意図がもてていれば、生徒に技能獲得の必要感が生まれているので教師が技能を教えるチャンス、教え込むのではなく生徒の願いに沿った技能面の指導ができる。
- ・どんな場面でグループ活動をさせるか。ここの部分の表現を具体的にどうするかという、ねらいをもったグループ活動を構想したい。グループで結論まで出さないといけないような感じになり、グループ活動を途中で切れなくなってしまう授業が音楽ではよくある。また、音楽でのグループ学習では歌えるか歌えないかというところが活動の中心になってしまうので、創意工夫の場面でのグループ活動の内容を工夫してほしい。

討議題4 思いや意図を具体的な表現として表わしていくための支援の仕方

附属松本中：「表現の工夫」のよさや楽しさを感じることができる支援のあり方

【石川先生のご指導】

- ・リコーダーで表現の工夫をどうするか。強弱が付かないかわりにアーティキュレーションがある。アンサンブルをするために創意工夫の観点が欲しい。ハーモニーのバランスやアーティキュレーションを入れる。
- ・日本の伝統音楽是非やってもらいたい。箏だと弾くだけで奏法が学べ、演奏技法にこだわったりする姿があり面白い。

(文責：安曇野市立穂高南小学校 関奈津美)

【第2分科会記録】

討議題1 器楽領域における実践事例

檜川中：一人ひとりが願いや考えをもち、友とともに学びを深める音楽学習について、曲の構成を理解し、リズムアンサンブルの表現を工夫する授業

- ・意欲的に器楽の学習に取り組ませるために、ギターを扱うのも方法。学年ごとに曲を決めて取り組む。3年では学級担任も巻き込んで発表会を行うなどの手もある。
- ・リコーダーでは、指づかいを「覚えさせる」のではなく必然的に「覚える」方法を考えたい。
- ・技能差がある生徒に対しては、出来る生徒と、技能的に難がある生徒をセットにして、教え合う。さらに出来ない生徒には、教師が入って教える。
- ・休符(八分休符)の取り方。「ウ」ではなく「ツ」にする。十六分休符は「チ」など。生徒が楽譜を読めるようになるための一つの方法。
- ・檜川中のレポートから。「打楽器のための小品」では、音色や強弱など、何をねらうかが大切。

【西澤先生のご指導】

- ・器楽に関わらず、歌唱など様々なアンサンブルの形態では音楽の本質である「揃う」と「ずれる」を感じられる。その中で、休符が揃うと緊張感が生まれるなどといった特徴を学ばせたい。
- ・共通事項アについては小学校6年次には半ば分かって中学校に入ってくる。だが、共通事項イについてはあまり分かっていないで中学校に入ってくるといった現状がある。

- ・「この音符は何分音符」といった知識のみを教えていくことは、あまり意味がない。知識は、より音楽が豊かになるために知っていた方がよいことととらえたい。感じ取ったことの根拠として楽譜をかかわらせたい。
- ・吹けるように、弾けるようにさせなければという指導をしてしまうが、「吹けること」「弾けること」が最終目標にならないようにしたい。
- ・檜川中のレポートから。前4時間の題材の振り返り。「他のリズムを聴きあいながら」この曲のよさを感じている姿。目指す部分はここ。レポート中学習カードの生徒の記述から。「強弱も意識してできた。」という記述。先生が一番触れたい要素は何か。音の重なり方とリズムをメインに据えた授業ならば、強弱にも着目した生徒はA評価。どこをB評価にするか。
- ・子どもたちが叩けるようにするために楽曲を「編曲」することもひとつの有効な方法。吹かせるだけ、叩かせるだけではなく、「表現できるようにすること」が重要。
- ・歌詞があれば、歌詞が音楽の特徴になるが、器楽曲には歌詞がない。「多声的か和声的か」「短い音符か長い音符か」などから曲の特徴を読み取る。その上で「この曲を扱うねらい」を絞る。

討議題2 鑑賞領域における実践事例

信州新町中：曲の価値と音楽を形づくっている要素の働きを結びつけた鑑賞の授業について、曲の特徴を知り、作者の思いを感じ取る授業
広徳中：音楽科として、確かな学力をつけるにはどうすればよいかについて、拍子やリズムの変化を知り、音楽から受ける印象の違いを感じようとする授業

- ・ブルタバの鑑賞の仕方。好きな場面を聞かせる。教師がピックアップした部分を聞かせるなど、いろいろな方法がある。
- ・音楽の中で子どもたちの言葉を確認していく。「この部分いいな、何で？」と問い返していく。
- ・鑑賞の時間の中で、私たちがその曲にどれだけ魅力を感じられるか。子どもたちがその曲を好きになれるか。発問と問い返しを常に行っていく。
- ・この場面はどういう場面？クイズ形式にするのも一つの方法。

【西澤先生のご指導】

- ・雅楽平調「越天楽」のように、冒頭からトゥッティまで、ある程度同じ形式をたどって演奏されるのが雅楽の特徴。その特徴を知識としてただ伝達しても意味はない。音の重なり、楽器の音色、など「どこに着目させるか」「何を切り口にして聞かせるか」。を決めだす。ひとつの要素で、すべてを表すことは不可能であるので、鑑賞の授業の中で、曲の何を、曲のどこを聴かせるかを教材化したい。
- ・楽器の音色⇒楽器の特性⇒重なりどうなっているか⇒図で表す、言葉で表す。問題はその後。段々重なって、「全部出てきたときにどんな音聞こえるか」といった知覚と感受をかかわらせたい。絞った音楽要素の伝達にならないようにしたい。
- ・知覚と感受の関わり。「こういうことが分かりました。」は知識。「なぜこの場面がよいと思ったのか」を、曲をさらに聴くことで明らかにすることができるよう、前後の場面との比較をしたり、同じような音の重なりや構成の曲を聴いたりして、比較できるようにすることも有効。
- ・評価すべきは、学習カードの記述量よりも内容を読み取りたい。

討議題3 歌唱領域における生徒が主体的に取り組むための支援について

根羽中：思いや意図をもって合唱できる授業展開はどうあったらよいかについて、「春に」の全校合唱指導
南宮中：生徒が自ら課題をもって、お互いに関わり合いながら、パートやバディ等の学習形態を工夫しながら学習を深め、自分のイメージする表現に近づいていく授業について、グループ活動や相互評価の工夫
緑ヶ丘中：生徒が音楽のよさや表現する楽しさを感じ、学ぶ意欲を高めていけるような指導はどうあったらよいかについて、曲の仕組みや曲想の変化について理解し、ふさわしい表現を工夫する授業

- ・ こうしたいという思いをどういう風にまとめるか。まとめることも大事だが、「その意見でやってみよう」など生徒間で共有する。やってみながら、それ違うな、こういう風にやってみよう、などをもっていくこともある。生徒たちでまとめられることもある。
- ・ 合唱の授業の中で、どのように到達点を考えていくか。歌いっぱなしではなく、1時間で得たものは自分の中でもっていて、積み重ねていく、忘れないようにすることが大事。
- ・ 教師も「こういう合唱」というものを自分の中でもった上で指導にあたるべき。
- ・ 音楽会の選曲どういうふうになっているか。クラスのイメージに合っているもの、難しすぎないものを、学級担任の考えを取り入れることもある。各学年のゴールを設定した選曲を。
- ・ 歌詞を読み込んで、心情を考えさせる場面の設定も大切。
- ・ 生徒の技能の伴わない部分は、教師が教え込むべき場面。
- ・ 音楽会の振り返りは、ただ書かせるだけでなく、具体的な観点を示して記入させることが必要。

【西澤先生のご指導】

- ・ 中学校の歌唱分野の指導においては、小学校の学習過程において通常歌うための技能は身につけているという立場が前提ではあるが、生徒の技能を補完していくことも教師の役割。思いや意図を実現するために必要なものが中学校の技能として位置付く。
- ・ 歌い合わせる技能が身につく日常的な活動として「斉唱⇒エコーソング⇒パートナーソング⇒オスティナート⇒カノン⇒2部合唱」というように多声的な音楽から和声的な音楽にだんだんスライドしていくようにすると音程感が身につくやすい。
- ・ 強弱表現は小学校2年生くらいからやっている(学習指導要領では4年生くらいから)。6年間ずっとやってきて、中学校でも強弱表現の工夫をする。「強弱」をつけなければならないのであって、子どもたちが願っているわけではない。またそれか、とならないように、学習へのおもしろさ加わらないと、子どもたちが強弱に対してよさを感じない。小学校の2番煎じにならないように。また、要素に触れさせることだけではなく、できるようにしてあげることも音楽科のやるべきこととして大事に考えていきたい。
- ・ 例えば、音の重なり方でも、強弱がついたように聴こえることがある。テンポの変化(速度と強弱の関わり)など、他の要素とかかわらせて強弱のよさを感じ取らせたい。

討議題4 創作領域における実践事例

辰野中：生徒一人ひとりが、表現する楽しさを感じ、主体的に追究するための指導について、自分たちの創り出したリズムアンサンブルを楽しむ授業
附属長野中：自分の思いと音楽の構造とをかかわらせて表現する力を高める指導のあり方について、CUPSの基本のリズムをもとにアレンジしたり、自分たち班の曲を「リズム」「形式」の

関わり合いに着目しながら、友と意見交換して見直したりする授業

- ・旋律とリズムについて。旋律は全生徒が関わって、生徒会歌を作ったという事例。
- ・創作の学習でつくったものは記譜をするかどうか。できるかぎり形にして残していく。
- ・思いや意図をもった創作を。どうしてそうしたのか。
- ・曲の中の和音から「終わった感じ」を発展させて曲の形式の話へ。
- ・「とりあえずできた」状態から、どうやって発展させるか。生徒の生活経験の中から、創作に生かしていけるとよい。

【西澤先生のご指導】

- ・「自分が感じてきたことを表してみましよう。」という創作には、それまでの音楽経験によって培われた音楽性が現れる。経験が耕されていれば耕されているほどよい音楽づくりができる。
- ・小学校での音楽づくりはある程度実践されており、構成・形式を扱った音楽づくりは実践が多い。一方で、旋律づくりの音楽づくりはやや少ないので、中学校の創作では要素をかなり限定しないと、子どもたちは創作できない現状がある。
- ・小学校によってやってきているものが全然違う。それぞれの子どもの素地が違う。アの音楽づくり、イの音楽づくりをどれだけやってきているか。やってきていないことは補完をする。できることの音楽づくりから始める必要がある。まずは生徒の実態把握が必要(どれだけの音楽経験を積んでいるか)。
- ・どんなに簡単でも、思いや意図をもって創作することが大切。
- ・辰野中のレポートから。具体物の操作が大事。せっかく作っても演奏できなかつたり、先生が言った音より、こっちの音がよいという試行錯誤があったり、楽譜で再現できるようにしておく必要がある。工夫できるものを形として残せるようにする手立ても考えていきたい。

(文責：塩尻市立丘中学校 大久保 慧)

V 本年度の反省と来年度の方向

◎本年度の反省

項 目	内 容
○本年度の研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> ・全領域にわたり、研究でき参考になりました。 ・学校の外でも音楽に親しんでくれる生徒を育てたい。 ・様々な視点をもち研究をしやすい。(行っている研究を発表しやすい) ・よいと思います。 ・とても勉強になります。 ・広がりのあるテーマでよいと思います。 ・方向性はよいと思う。
○研究の主な内容と研究の成果について	<ul style="list-style-type: none"> ・1つのテーマでも様々なアプローチの仕方があり、勉強になる。 ・各校の様々なテーマによる実践を学ぶことができる。 ・「生涯にわたって」ということが研究テーマに入っているため、各校の先生方からその題材でどのような視点をもって研究されているか知れるとよいと思う。 ・よいと思います。 ・創作や鑑賞などに手がつけやすくなりました。 ・様々な切り口から先生方が取り組んでおられる様子をお聞きでき、大変充実している。

○研究の方法や経過について	<ul style="list-style-type: none"> ・4領域に渡っての実践が発表されていてよい。 ・充実していると思います。 ・よいと思います。 ・色々な指導内容を教えていただき勉強になる。
○研究会当日の運営について	<ul style="list-style-type: none"> ・参加校のレポートを全て持ち帰られる点がよい。 ・清掃が行き届いており、生徒のあいさつ、言葉がけもさわやかであった
○研究集録等の Web ページ掲載について	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で困ったときに、活用できる研究集録でありたいと思います。連合に参加していない方も、研究会の様子が分かるような・・・
○本年度運営全般について	<ul style="list-style-type: none"> ・滞りなくできました。事務局の先生のおかげです。

◎来年度の方向

○来年度の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・同じような方向でよいと思います。 ・継続でよいのではないか。 ・附属中の生徒さんの授業を参観して、他校の実践に学ぶということで研究会をしてみたい。 ・とても大きな意味をもつテーマであると思うので、今年度と同じテーマでよい。 ・楽しさを感じ、心情を育てるという視点は変えない方向で。
○来年度の研究の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・あくまで、授業研究会であることを前提に、もっと参加人数が増えるような対策を考える。
○来年度の研究の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しさに繋がるもので学力プラスを考えないといけない。
○その他、改善したい点	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート提出ですが、当日持参のみでよい。 ・グループでの話し合いがよい。 ・レポート提出期限が少し早いような気がしました。(緑ヶ丘中) ・参加人数が少ないのが残念。 ・レポート無しでも、学習カードだけでも見せていただきたい。

VI あとがき

お忙しい時期に、県下各地から、21校、24名の先生方にお集まりいただき、日々の授業実践をもとに、生徒の学ぶ様子を通して、指導のあり方を熱心に討議していただき、本年も多大な成果を収めることができました。

事前から、会の進め方、討議題の内容等、懇切丁寧にご指導いただきながら一つ一つのレポートに対してご示唆をいただいた長野県教育委員会中信教育事務所主任指導主事 石川武先生、長野県総合教育センター専門主事 西澤真一先生に心から感謝申し上げます。また、綿密な司会計画を立ていただき、討議を深めてくださった司会の杉山 厚志先生、竹腰 益臣先生、当日の記録及び研究集録のまとめに多くの時間を割いてご尽力いただきました記録の大久保慧先生、関 奈津美先生、心より感謝申し上げます。そして、お忙しい中、日々の実践をレポートにまとめ、熱心に協議に参加され、研究会を実りあるものにしてくださった参会の先生方、本当にありがとうございました。

来年度の研究会にも、ぜひたくさん先生方のご参加をいただき、有意義な研究会になりますことを祈念申し上げ、まとめとさせていただきます。

音楽科委員長 稲垣 典子
副委員長 五味 誠